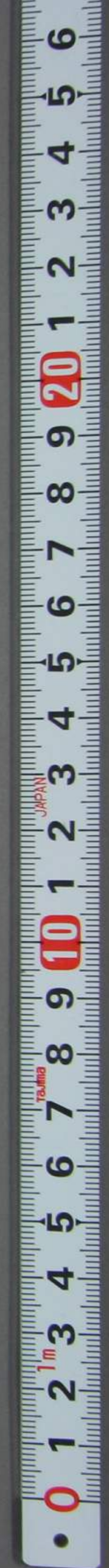


114  
A5065  
2

目下朝鮮に於ケル日露兩國ノ關係並ニ朝鮮政府内部ノ事情ヲ  
 觀シ來ル前途頗ル憂慮スベキモテリ人ニヤ東京に於テハ大隈外相ト  
 ローゼン公使トノ間ニ協定ニ迫ルルニ韓各州縣ノ議アリ其決  
 スルトコトは未ダ知ラズト云モ其ノ影響甚スルトコト蓋シ異大ナルモノ  
 アラム  
 日露協定ハ識者ノ已ニ眼破スルヤウ國際間ニ破棄ノ好ト實  
 ト時機トヲ得バ其消滅スルハ中止又ハ破棄セラルル易クナルノ  
 故ニ我帝國が朝鮮に於ケル經營ハ因ヨリ協定ノ乾  
 田外ニ枝逸スルコト能ハズト臣モ深ク其基礎ニ其責缺ト  
 ヲ植扶セサルベカラズ





昨年二月事度我当局者ハ專ラ朝鮮宮廷ノ信誼ヲ得  
ムカ為メニ深密ナル注意ト鷄算ナル親如トヲ盡シテ  
シテ露國ノ宮廷策ヲシテ一貫トシテ欠クミテラレノ還官トナリ  
多数存兵ノ拒絶トナリ加藤公使ノ引見トナリ陛下独リラエハル氏  
ノ差言ニ信頼ヲ為シテハナリシモノ陛下賢明ノ致ストコトナリ  
トハエモ蓋シ我当局者ハ醜々トシテ效ヲ急カス其心ヲ甲エトコト  
深且功ナリト以テ也

然リトモ之レカ為メニ三十七名ノ死者及多数ノ損害者ノ善後處分  
ハ顧ミルナク、京釜鉄道モ亦黙了シ殊ニ日本帝國ノ為メ多数  
ノ如意ト政事トヲ抱持シタルモノヲ甲エトコトナリ一言スレバ宮中ノ信

ヲ得ムカ為メニ日本ハ實ニ大ナル國際ノ利益ヲ隱忍シタルナリ而  
カモ此隱忍ノ犠牲ハ我当局者ノ榮譽ナリトシテ反對党  
ノ忠告濫ヲ置フコト能ハサルベシ

今ヤスベール公使ハ朝鮮ニ來レリ其謀ルトコロノモノ因ヨリラエハル此非  
ズ而シテ協亭ノ權限ヲ多ク今日於テ其年迄ヲ迫ラシムルモノアリ此  
則チ露國が協亭以前ノ韓廷ニ約シタル軍隊ノ刊修及教育ノ一率  
也又ベール公使ハ協亭以外ニ之ヲ断行セムトスルモノ也

朝鮮政府ハ目下西國利害ノ異ナルトコロニ處シテハ自ら断ズルノ政  
治欲ニ至シテ其故ニ政務一ニ西國ノ向ニ立チテ大ニナキ權衡ヲ得ン  
トスルナリ然レドモ一旦協亭ノ追加談判ニシテ存兵ヲ認承



スルに至ラバ已に一夫ヲ友セントシヨアルガ如キスベール氏ノ韓廷包圍策ハ  
瞬間ニ其效センノミスベール公使ハ内ヲシテ内官ノ向キ露國親友  
ヲ以テ外ヨリシテ侍衛隊(定中ノ護兵ニテ露國ノ訓体)ニ加フル  
今四年存聘ルナリ名ノ指揮ノ下ニ五百名ヲ以テ全  
然朝鮮ノ兵力ヲ王宮ニ附屬シテ以テ内閣操縦ノ具トサン  
トス若レ此際我吉局者ニシテ斯ル危險ノ策ヲ防カカ者ノ親  
衛隊訓体ノ約ヲ為スニ非ザレバ今後朝鮮ニ出スル困難ハヤ明カナリ  
益及我政府長事業ノ如キ事成立ルヲ困難ナルヤ明カナリ似今  
侍衛隊ヲ露兵ノ下ニ置キ親衛隊日本兵ノ下ニ指揮訓表セ  
ルモ只ダ西者ノ軋轉衝突ヲ起スニ止リテ是レ極高ヲ破リ王國

平和ヲ破ルノ始ナリ

加藤公使ハ温厚ニシテ思慮深キ老練者ナリ昨年以來吉局者  
訓令ヲ奉ル其劃策宜キヲ得テ今日に至ラシタリ而シテ公使ノ  
改策ハ皆ナラズベル氏ノ性急ト多第トヨリテ却ッテ好果ヲ友揚スルニ至  
ラシメタリ然リトモ介ヤスベール公使ガ全無極高以外ノ訓令トモ  
登リヨリテ若カントスル方針ニ向テ意ノ交理ヲ為シ得ルヤ疑問也ス  
ベール公使ハ口ニ米國人士ヲ排スル外シテ大ニ甲サントナリ表面ハ國族  
ヲ排スルトシテ裏面ニ之ヲ改修ノ中心トナントセリ彼レハ實ハ日本  
政府ガ若カントスル題目ヲ存シタルモノ也其後畧尋常ニ非ズ我ラ  
ハ今後外務大臣ノ朝辭ヲニ於ケル眼力ノ変化並ニ其處撥ノ一変



シタレコトハ 獲養ナル 大隈伯ノ 邑ニ 寓ラセラルタルコト 愚考セリ  
之ヲ 要スルニ 因際ニ 子件トシテ 露國ノ 行為ヲ 保商ノ 範圍内ニ  
在ラシムルコトヲ 得ルヤ 否ヤ、 朝鮮ニ 對シテハ 實地ニ 立シテ 全地内國ノ  
外ニ 立ツルニ 係ルヤ 否ヤ、 此大問題ニ 在リ 是レ 今時ヲ 以テ 尤モ 際  
ニ 至リ 秋ナリト 信カル 所也